

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム 愛の郷 笠岡
日付	平成17年2月7日
評価機関名	社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
評価調査員	在宅介護支援センターでの認知症高齢者の介護、相談援助歴 7年 在宅介護支援センターでの相談歴 11年、家族介護歴 3年
自主評価結果を見る（事業所の自主評価結果にリンクします）	
評価項目の内容を見る（岡山県の定めた評価項目へリンクします）	
事業者のコメントを見る （評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります！）	

外部評価の結果

講評
全体を通して（特に良いと思われる点など）
洋風の建物で、周囲の建物との調和もとれており、あたたかな雰囲気のあるホームでした。玄関から一歩外に出ると、きれいな庭があり、見晴らしもよく、ひなたぼっこをするにはとても気持ちの良い環境です。
入居者の方が楽しく笑顔で過ごせるように、職員は前向きに質の良いケアがどうすれば実現できるかを検討されている姿勢は好感が持てました。
かかりつけ医と密な連携が取れていて、すぐに診てもらえたり、すぐに相談できる体制が図られていますので、安心して生活できるように感じました。
開設されてまだ日が浅いですが(Aユニット：平成16年3月～、Bユニット：平成16年6月～)、地域への貢献、地域に密着したホームを目差し、積極的に交流を図ろうと努力されています。
特に改善の余地があると思われる点
日々の申し送りや会議の内容等、職員間で周知徹底できるよう、記録の書き方の工夫や見やすい整理の仕方を検討されてはいかがでしょうか。
入居者の生活が職員の業務に流されているような感じがしました。もう少しゆったりくつろいだ雰囲気づくりを検討されてはいかがでしょうか。
法人グループの運営理念として、『嫌な仕事ほど恩に報いる道・・・』という下りがありますが、『嫌な仕事』とはどのように解釈したらよろしいでしょうか。入居者や家族が目にした時、どんな気持ちになるでしょうか。今一度振り返ってみていただきたいと思います。

運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 入居者が生活しやすい環境に配慮し、毎日楽しく過ごせるようなホームをめざしています。 さみしさを感じさせない、家庭の延長のように居心地のよい場所として感じていただけるようなホームを考えています。 家族や外部の人がいらっしゃってても、『将来はここに住みたい』と思えるようなホームをめざしています。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境づくり		
4	建物の外周や空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 入居者が、自由に好きな場所で過ごせるように、廊下にソファを置いています。 日当たりが良く、庭が見える応接間は、多くの入居者に好まれ、くつろぎのひと時を過ごしています。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 話をするときは居室や外など、個別に話がしやすい場所に移動するなどの配慮をされています。 なるべく入居者一人ひとりの思いを聞くようにして、それが叶えられるよう検討しています。 持っている力、掃除や洗濯、下膳など、しなければならないこととしてではなく、自主的に行なえるようにサポートしています。		

運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 スタッフからの意見で『よりよい体験(注1)』を行なう計画があります。 注1：入居者に寄り添って同じ時間を同じ目線で過ごすことにより気持ちを理解し、スタッフに気づきをもたらそうとする試み。 事故等発生の際は、事故報告書にて原因と解決策を検討されていますが、同じような事故が何度か繰り返し発生していることもあったようです。今後は、さらに実際のケアの場面に生かされるようなミーティングの開催や、共通認識を図ることができる方法を検討される必要があるのではないのでしょうか。		